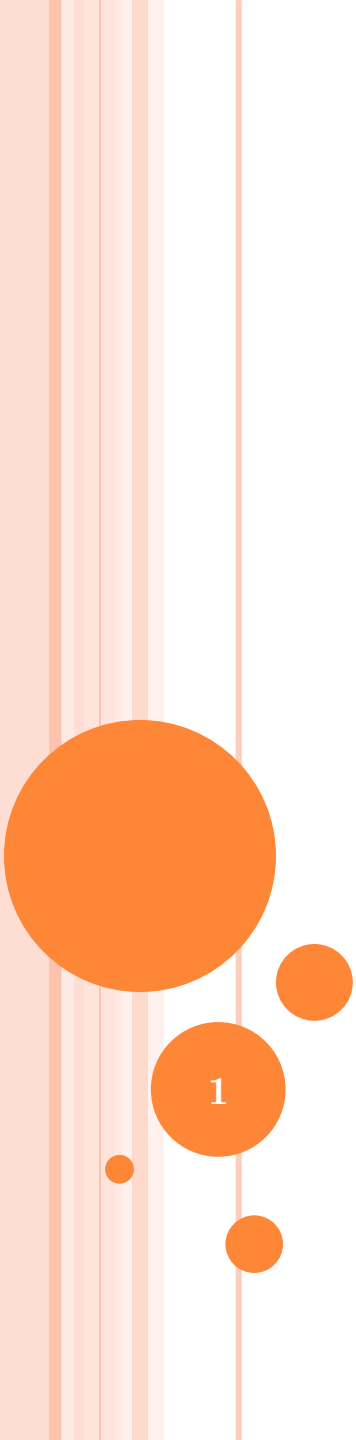




【2020年度専門演習Ⅰが ぐ ぐ】（2020/3/30）

## 関司ゼミ ガイダンス補足資料

新2年生の皆さん、はじめまして。関司です。

昨年度はサバティカル（研究休暇）を頂き、今年度から授業に復帰します。昨年度はオープンゼミの開催がなく、ゼミの様子が分からないところもあると思いますので、この資料で補足します。志望予定の学生は必ず目を通してください。

# まず、自己紹介です。

- 愛媛県松山市道後出身，高校まで松山暮らし，大学から東京へ。

## ①進路に影響を与えた阿蘇との出会い

**1995年**、学部1年生で、先輩たちの地域社会調査で熊本・小国町に参加。農山村の地域づくりの現場を初めて訪問。  
当時授業で配られた、人生を変えた1枚のチラシ→

**1997年**、大学と熊本・小国町とで、3年間の調査継続決定。「九州ツーリズム大学」に参加し、東京から阿蘇に通うように。

→九州各地の農山村の現場の人たちと知り合う。都市農村交流・グリーンツーリズムの動きを学び、その動向に注目するように。

九州ツーリズム大学でのひとコマ→



相関社会科学 社会調査研究プロジェクト  
**日本の地域社会**  
参加者“大”募集中!!

東京大学教養学部相関社会科学専攻課程では、日本の地域社会の動態を実証的に明らかにすることを目的として、研究プロジェクト『日本の地域社会』をすすめています。  
本年度は、熊本県小国町を対象とした調査を実施し、地域社会に生きる人々の意識を調査します。なお調査実施の日程は以下のとおりです。

期間 1995年 7月 29日～ 8月 12日  
(この期間内の1週目のみの参加可)

調査地域 熊本県阿蘇郡小国町一帯

参加資格 所属・学年を問わず誰でも参加できます

現在このプロジェクトは本学教養学部の正課「地域社会論演習」としてすすめられています。現在も参加者を広く求めています。今からでも間に合います!!  
メインテーマは『地域活性化』ですが、参加者個々の関心に従って、政治、経済、教育、ジェンダーなど多様な視点からのアプローチが可能です。  
参加者には交通費、宿泊費に関して半額程度の補助金が支給されます。

問い合わせ先  
事務局担当 助教授 山本 泰 (03-5454-6476)  
相関社会科学専攻大学院生室 (03-5454-6505)  
博士課程1年 金井 雅之 (03-3843-0020)  
久木元 真吾 (045-731-8255)

※ 全席で「地域社会」の授業  
14日→15日

# 自己紹介（続き）

## ②農山村に赴く同世代との出会い

1997～98年度、国土庁（当時）事業で派遣されてきた東京の地域づくりインターン生と小国町で出会い、地域づくりに関心を寄せる新たな仲間ができる。

2000年、トヨタ財団から市民助成100万円を受け、インターン事業再開へ。受け入れ地域の皆さんや仲間たちと「地域づくりインターンの会」を立ち上げ。

…インターンの会は、後輩たちが事務局をバトリレしながら20年継続。

→ “田園回帰” の第一世代の立場から、今、注目されている、農山村地域に向かう若者たちの動きをサポート。

小国町の親父である江藤訓重さんの田んぼで、同期の仲間たちと、台風後に稲刈り手伝い→



## 自己紹介（続き）

③大学院時代には、阿蘇地域の“入会牧野”（いりあいぼくや）を研究  
1999年～、集落住民の“牧野”への関わりに注目。

その利用と管理の担い手問題を研究テーマに、牧野組合の現地調査を重ね、  
博士論文に取りまとめる。

→集落・コミュニティ×地域資源管理を捉える原点に。

【現在の専門領域】農業経済学/農山村政策論/地域資源管理論

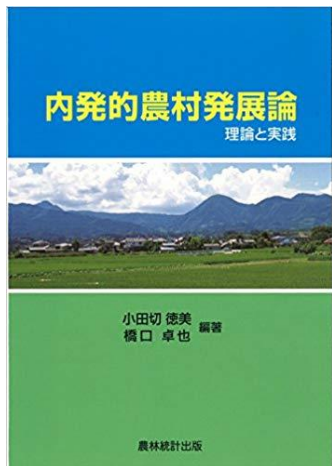
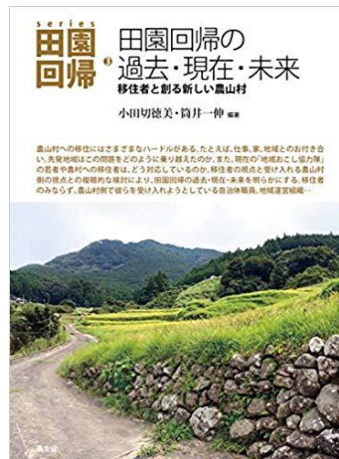
↓ 阿蘇地域の牧野に放牧される牛たち

↓ 毎年春先に地元住民が行う野焼き作業



# 主な著書

※ゼミではこのような農山村の地域づくりに関連する文献も輪読します。



▼小田切徳美・平井太郎・図司直也・筒井一伸『プロセス重視の地方創生 農山村からの展望』筑波書房，2019年

▼図司直也『就村からなりわい就農へ 田園回帰時代の新規就農アプローチ』筑波書房，2019年

▼椎川忍・小田切徳美・佐藤啓太郎編『地域おこし協力隊 10年の挑戦』農山漁村文化協会，2019年（図司「協力隊と地域活動の実践論理—「第Ⅰ部事例編」からの結像」執筆）

▼小田切徳美・橋口卓也編『内発的農村発展論—理論と実践』農林統計出版，2018年

▼小田切徳美・筒井一伸編『田園回帰の過去・現在・未来: 移住者と創る新しい農山村』農山漁村文化協会，2016年

他。

## 図司ゼミ＝“ローカルゼミ”です。

■地元や地方の魅力を再発見し、共感しながら、そこに  
関わっていく面白さを大事にするゼミ

■地元や地方の社会的・経済的諸問題を議論しながら、  
“ローカル”の今を読み解く「ものさし」を学び、皆さ  
んが学生として、また社会人として問題解決にどう関わ  
れるのかを一緒に探っていくゼミ

■ゼミの目標…社会人に向けた3年間のプロジェクトを大事に。

① 諸問題の**カラクリ**を知ろう。

～好奇心と想像力～

② **現場の素敵な大人**にたくさん出会おう。

～行動力とコミュニケーション力～

# ゼミの進め方①

■ 今期（新2年生）のフィールドワーク先は、  
長野県泰阜村（やすおかむら）です。

この村はどこにある？ どうやって行くの？

どんな歴史を歩んできた？ どんな地域づくりを行っている？

そこで、図司ゼミに何が期待されているのか？

詳細については、ゼミが始まってからお話します。まずは、皆さんなりに村のことを調べてみてください。

この村の皆さんと、卒業までの3年間、しっかり関わっていきます。

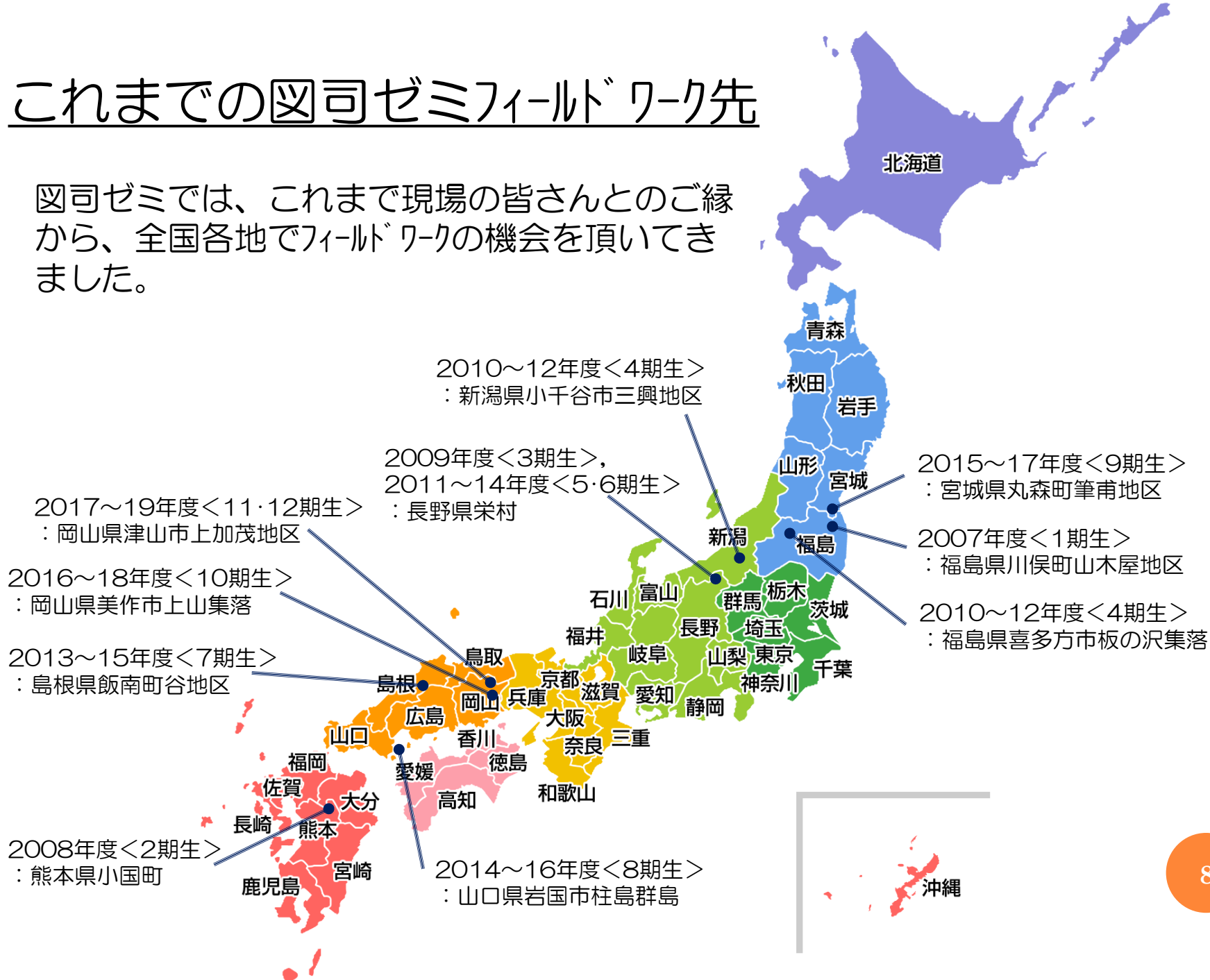
フィールドワークは、2年生の6月頃に、まず先発隊が挨拶に行き、全員では夏休み期間中（8月下旬～9月中旬あたり）に4～5日間の合宿をまず行います。その後は、現地と相談しながら、タイミングを合わせて訪問を重ねていきます。

なお、現地への旅費・滞在費などの諸経費は、原則自己負担になります。

ゼミへの参加にあたって、予め了解をお願いします。

# これまでの図司ゼミフィールドワーク先

図司ゼミでは、これまで現場の皆さんとのご縁から、全国各地でフィールドワークの機会を頂いてきました。



## 【大学ゼミフィールド活動から：山口・岩国市柱島群島】

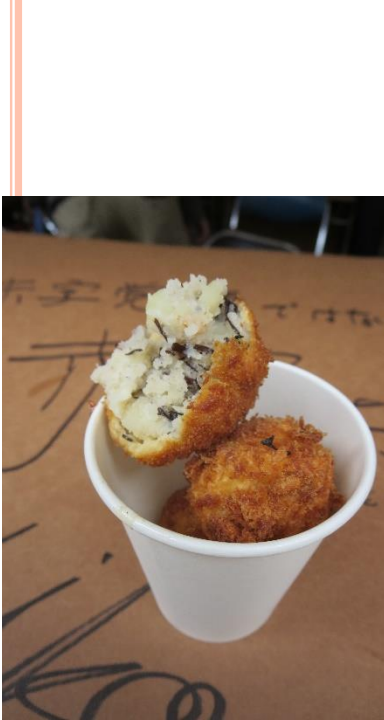


岩国から船で60分。全体で230人。高齢化率80%強。県の域学連携事業を通じて関わり。

元気な明るい島の人々 →島の地域づくりをどう考えるか？



# 【大学ゼミフィールド活動から：山口・岩国市柱島群島】



## 【大学ゼミフィールド活動から：宮城・丸森町筆甫地区】



宮城県最南端の中山間地域。人口720人。高齢化率41%。  
2003年に、ひっぽUターネット設立。移住受け入れを地域ぐるみで展開するも、3.11で福島原発の放射能被害を受ける。  
→震災から4年を経て、ようやく立ち上がり、学生とともに前進へ。



## 【大学ゼミフィールド活動から：岡山・津山市知和・上加茂地区】



岡山県北部の中山間地域。人口188人。高齢化率46.6%。  
「地域の困りごとは自分たちで解決しよう」と集落NPO「ヌル・ちわ」を立ち上げ。「知和は大家族」をモットーに、便利屋や集落居酒屋を展開。→上加茂地区での集落連携に向けて、協議会を設立し、空き家調査やアンケート調査の実施を計画。ゼミ生とともにフィールドワーク3年目。



## ゼミの進め方②

■授業では、ゼミ生での議論やグループワークを大事にしていきます。

概ね以下のイメージですが、状況を見てプログラムを検討していきます。

<2年～3年ゼミ>…ゼミ全体でのフィールドワークを軸に

○フィールドワーク先の事前/事後学習

○テキスト輪読を通した農山村の地域づくりに関する基礎的理解

○外部からのゲスト講義・ディスカッション

+

<3年ゼミ後半～4年ゼミ>…個人での卒論取りまとめを軸に

○卒論に向けたテーマ探し

○卒論ゼミでの作業経過報告と議論を通したブラッシュアップ

## 最近の卒論テーマ（一例）

▼学校給食での**地場産物利用**の普及の現状と課題

—今治市と袋井市の事例を通して—

▼**クラウドファンディング**を手法とした地域活性の可能性

▼マイナースポーツの振興のあり方

—**地域と密着するハンドボール**を事例に—

▼内子町における**移住環境**の現状と課題—移住者の声から—

▼**学生が関わり続ける農村**の変化

—地域づくりインターンの会と新潟県長岡市—之貝集落—

▼**農村体験教育旅行**が受入地域にもたらす効果

—武蔵野市のセカンドスクールを事例として

▼**道の駅**が地域活性化に果たす役割

▼**食品ロス**大国日本における対策と課題

▼今、なぜ**農泊**が推進されるのか

## 図司ゼミを考えている皆さんへ

図司ゼミは、地域づくりの現場との関わりを大事にするゼミです。

地域には、いろんな方が暮らしています。そのような現場に対して、多彩な学生と一緒に向き合いたいと考えています。

志望レポートには、ぜひ、皆さんのゼミに寄せる原点やきっかけをできるだけ具体的に書き込んでください。また、皆さんの豊かな個性も、しっかり記してもらえると、書類選考の上で有難いです。

1点、お断りになりますが、図司ゼミは、夏休みをはじめとする長期休暇や週末に、仲間と一緒にフィールドワーク先に出向く活動への参加がゼミの性格上、必須となります。もし、この環境が整わない場合（試合・合宿がバツィグする体育会所属の皆さん、自分個人の活動を優先させたい皆さんなど）は、ゼミ活動のベースを欠いて、実のある学びを保障できないため、申し訳ありませんが、他ゼミへの参加を検討してください。

意欲ある新2年生の皆さんにお会いできるのを  
楽しみにしています。